早期育成プロジェクト参加報告書

審判員名	九里　亜紀	所属	中体連
研修会名	平成27年度　国際審判早期育成プロジェクト		
大 会 名	「東日本大震災」復興支援　第91回天皇杯・第82回皇后杯 全日本総合選手権		
期　　間	平成28年1月9日（土）～1月11日（月・祝）		
会　　場	国立代々木競技場第一体育館　会議室		
参 加 者	尾形　美樹(30歳・長野県)　山口　波穂(26歳・熊本県)　橋本　恵一(34歳・島根県) 新屋　聡子(24歳・北海道)　東條　輝正(28歳・東京)　管　祐介(27歳・東京) 若林　謙作(30歳・栃木)　九里　亜紀(31歳・埼玉)　渡辺　茜(25歳・静岡) 山本　達也(29歳・富山)　高野　晃平(28歳・京都)　村田　尚美(29歳・大阪) 板井　優哉(29歳・鳥取)　阿賀　文郁(29歳・岡山)　川島　司(30歳・宮崎) 男性　8　名・女性　7　名　　計　15名		

スケジュール

1月9日（土）		
9:45～	開講式	審判委員長　吉田　利治 氏 早期育成プロジェクトについて　審判委員　平　育雄 氏
10:15～12:00	研修Ⅰ	ルールテスト及び語学研修
	昼　食	
13:00～15:20	研修Ⅱ	観戦研修(女子準決勝)　観戦研修終了後（ディスカッション）
15:30～16:40	研修Ⅲ	国際審判取得に向けて　熊谷氏、加藤氏、増渕氏 ナショナルチーム帯同遠征の経験から　中嶽希美子 氏 国際審判の活動について　須黒　祥子 氏
17:00～19:20	研修Ⅳ	観戦研修(男子準決勝)　観戦研修終了後（ディスカッション）
19:30	1日目終了　解散	
1月10日（日）		
9:45～	国際審判員研修会開講式（同席）	
10:00～12:00	研修Ⅴ	国際審判員研修会講義1の聴講「これからの日本の国際審判員の方向性」 橋本　信雄　氏　FIBAコミッショナー/FIBA-ASIAレフリースーパーバイザー
	昼　食	
13:00～13:40	研修Ⅵ	国際審判の活動について　平原　勇次 氏 国際大会を経験して感じること　小澤　勤 氏
14:00～16:20	研修Ⅶ	観戦研修(女子決勝)　観戦研修終了後（ディスカッション）
16:30～17:30	研修Ⅷ	グループ・ディスカッション他
17:30	2日目終了　解散	
18:30～	夕食兼懇親会	

1月11日（月・祝）		
9:30～12:00	研修Ⅸ	**国際審判員研修会講義2の聴講** **「オリンピックに向けて日本の強化につながる審判とのコンセンサス」** 橋本　信雄　氏　FIBAコミッショナー/FIBA-ASIAレフリースーパーバイザー 内海　知秀　氏　女子日本代表ヘッド・コーチ パネリスト　：　須黒　祥子氏　・　平原　勇次　氏
	昼　食	研修Ⅹ　ランチミーティング形式での語学研修
13:00～13:30	研修Ⅺ	**国内での取り組み**　　平　育雄 氏
13:30	閉講式	審判委員長　　吉田　利治 氏
14:00～16:00	研修Ⅻ	**観戦研修(男子決勝)**　※各自帰路の時間にあわせて帰郷可

研修内容

【研修Ⅰ　ルールテスト及び語学研修】高城邦弘氏

・英文ルールテスト　　・英会話（インタビュー方式）

〈インタビューテーマ〉
出身地(県の漢字の意味・文化について・県の人口・交通手段とかかった時間)、職種(仕事の内容)、バスケットボール歴、審判歴と始めた理由、尊敬する審判員、英会話の練習法について、等。

〈講師からのアドバイス〉
相手の知らないことを気づいて伝えるということが大切(おもてなし・サービス精神)
会話をするときは、ONとOFFの使い分けが必要。“相手の気持ちを大切にしつつ、自分を表現する”

【研修Ⅱ　観戦研修(女子準決勝)】平育雄氏・中嶽希美子氏

観戦研修終了後、現役国際審判員を交えてのディスカッションが行われた。試合を観戦し、それぞれが感じたことを出し合った。また、ディスカッションの最後には、準決勝を吹かれた3名のクルーにお話を聞くことができた。試合中に選手にかけていた言葉や、ベンチとのコミュニケーション、メカニックについてなど、トップリーグを吹く方たちが多くのことに気を配り、協力し、ゲームを進めていることを知ることができた。また、ディスカッションでは、中々思うように自分の意見が言えず、知らない言葉について、疑問を残したまま終わってしまった。平氏より、積極的に意見を出し合う。分からないものを分からないままにしないというアドバイスをいただいた。

【研修Ⅲ　講義】 須黒祥子氏・中嶽希美子氏

現役国際審判員3名(熊谷氏、加藤氏、増渕氏)より、「国際審判取得に向けて」というテーマで、それぞれが体験されたこと、取り組まれてきたことを話していただいた。長期間かけて準備をしていくことが大切であり、職場や家庭などの理解を得られる環境づくりについて話していただいた。
中嶽氏より、国際審判員としての活動についてお話をいただいた。①国際審判員になるだけではなく、活躍できるレフリーになること　②good　person＝good　referee　③より語学力が必要であるということを分かっておくというお話をいただいた。
須黒氏より、日本の常識は世界では非常識になることもあるということを知っておく。日頃から自分の意見をしっかりと持ち、自分で考えるという習慣が必要。レフリーとしての第一印象は大切であり、身体の見せ方から公平性を出すことが大切。近道はないので、1つひとつを着実にというお話をいただいた。
平氏より、この話を聞いた上で、大切なのは「今」何を頑張るかということ。情報は自ら進んで集めていく。得た情報は共有し、自分だけのものにしないというお話をいただいた。

【研修Ⅳ　観戦研修(男子準決勝)】平　育雄氏・東　祐二氏

国際審判員　東氏より、お話を聞きました。自分の責任エリアはマニュアル上ではあるが、自分が一番良いスペースで見ることができるエリア＝マイエリアという考え方がいいのではないか。レフリーが絶対にやってはいけないことは、仲間の判定を否定する、レフリー側の事情で言い訳をすることである。と学んだ。

【研修Ⅴ　国際審判員研修会講義1の聴講】橋本信雄氏

テーマは、「これからの日本の国際審判員の方向性」について。橋本氏より2015年シーズンを振り返って、国際審判員・コミッショナーライセンスの変更、ONE FIBAにおける構造変化についてなどの具体的な話を聞くことができた。その中でも、レフリーとソーシャルメディアの関わり方についての話が印象的だった。表現の自由はあっても、我々レフリーは、表現して良いものと悪いものを認識することが大切だということを感じた。

【研修Ⅵ　講義】平原勇次氏・小澤　勤氏

平原氏より国際審判員としての取り組みについてお話をいただいた。国の情勢によっては、警備をされながら会場に入ることもあり、拳銃を持った警備員が観客を監視しているという厳重体制でのゲームもあるという体験談が印象的だった。

小澤氏より「国際大会を経験して感じること」というテーマでお話しいただいた。国際大会では、夜遅い時間からのゲームもある、大会に入る前のクリニックでは、体力テスト等も実施される。タフなゲームでも体調を崩さない体力や生活環境の変化に対応できる精神力も求められる。自分なりのルーティーンを持つことも、平常心を作り出す上では良いのではないかというお話をいただいた。

【研修Ⅶ　観戦研修(女子決勝)】中嶽希美子氏

観戦研修終了後、現役国際審判員を交えてのディスカッションが行われた。決勝を担当された、3名のレフリーにお話を伺うことができた。試合の途中に警報器がなり、ゲームが中断された。そういった突発的な出来事に対して、レフリーが出来る対応やメカニックについてのお話を聞くことができた。アドバンテージ・ディスアドバンテージを考えた判定により、ゲームがスムーズに行われていた。

【研修Ⅷ　グループディスカッション】

テーマ①自分の活動について、テーマ②自分の求めるレフリーについて、2つのグループに分かれ、それぞれ15分間のディスカッションを行った。このディスカッションでは、仲間の意見を聞くだけではなく、その意見に対して、質問をすることでより深めていってほしいというアドバイスをいただいた。自分の意見を述べるだけでなく、相手の考えをより引き出すことの難しさを感じたディスカッションであった。

【研修Ⅸ　国際審判員研修会講義2の聴講】橋本信雄氏・内海知秀氏・須黒祥子氏・平原勇次氏

テーマは、「オリンピックに向けて日本の強化につながる審判とのコンセンサス」
ゲストとして、女子日本代表ヘッド・コーチ内海氏を迎え、橋本氏がコーディネーターを務め、話を聞くことができた。途中、パネリストである平原氏や須黒氏の体験談に基づくお話を聞くこともできた。印象に残ったのは、チーム側が求めるレフリーの話である。自信のある“いい顔”のレフリー、ベンチとのコミュニケーションが取れるレフリー、若い選手に対してダメなものはダメと正しく教えることができるレフリーというお話を聞くことができ、今後の自分の課題にしていきたいと思った。

【研修Ⅹ　語学研修】高城邦弘氏
ランチミーティング形式で行われた。

【研修Ⅺ　講義】平　育雄氏

平氏より情報を共有していくことの留意点、情報収集の方法、トップレフリーになるために必要とされること、環境についてのお話をいただいた。「自分自身も環境要因」であるからこそ、自覚を持った行動が必要という言葉を聞き、自分の目的ができた。先を見据えて、今できることに取り組んでいきたいと感じた。

【研修Ⅻ　観戦研修(男子決勝)】

担当された3名の審判員が一つのクルーとなってゲームが進んでいたことが印象的だった。選手・ベンチ・観客全てが、ゲームに夢中になっていたように感じた。素晴らしい決勝戦であった。

全体の感想

トップレフリーの方達をはじめ、世界や日本のバスケットボールに携わっている方々の「生」の声を聞け、多くのことを学ぶことができた。また本プロジェクトで得たことを身近な仲間達と共有していくこともこれからの自分の役目であると感じた。橋本氏の「私はどんなゲームでも手を抜かずに吹いて終えられたことが誇りである」というお話、平氏の「自分自身も環境要因である」という言葉が心に残っている。大切なのはこれからだと、強く思えた3日間であった。同じ志を持つ仲間を大切に、自覚を持って、頑張っていきたい。

最後になりますが、日本バスケットボール協会審判委員会の皆様には、大変お世話になりました。また、本プロジェクトに参加推薦をしていただき、ノミネートしていただきました皆様に心より感謝申し上げます。有難う御座いました。